

# 河川護岸のチェックポイント（その1）

## 【河道条件】

- ・1  河道区分を把握したか
- ・2  上位計画・周辺計画を把握したか
- ・3  本川及び支川の計画平面、縦断、横断形状を把握したか
- ・4  河道の計画・施工断面、周辺構造物の整備・撤去計画を把握したか
- ・5  本川及び支川の水利条件及び河道特性を把握したか
- ・6  計画高を把握したか
- ・7  法線は適正か
- ・8  座標と基準点は適正か
- ・9  設計区間のセグメント区分を確認したか
- ・10  河川の成り立ちを把握したか
- ・11  その他の関連情報について把握したか

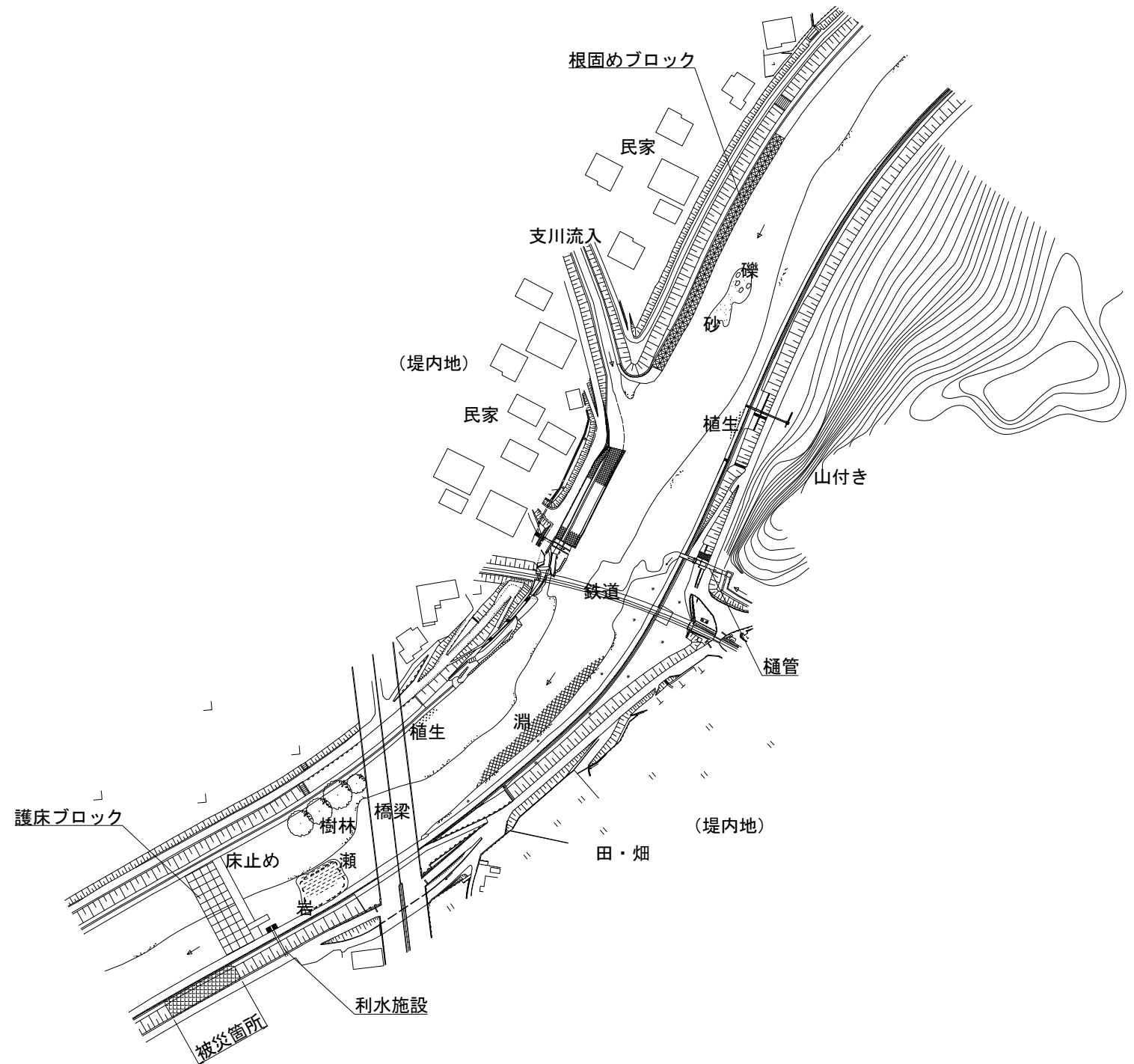
## 【現地踏査】

- ・12  河川状況を把握したか
- ・13  河川構造物及び橋梁の状況を把握したか
- ・14  周辺環境の状況を把握したか
- ・15  用地境界位置を確認したか
- ・16  支障物件の状況を把握したか
- ・17  施工計画の条件を把握したか

## 【基本条件】

- ・18  設計箇所、設計範囲を確認したか
- ・19  対象箇所及び上下流の環境特性は確認したか
- ・20  水利条件や河道特性は整理されているか
- ・21  既往検討による築堤の計画断面及び施工断面は妥当か
- ・22  関連する設計との整合はとれているか
- ・23  周辺構造物の計画等を確認したか
- ・24  地層構成等の条件は把握しているか
- ・25  伝統工法の採用の可能性について確認したか
- ・26  関係機関、地元等との調整内容を確認したか
- ・27  景観への配慮は必要ないか

項目	確認	確認日	確認資料、チェック結果
照査項目番号	照査項目に✓を記入	確認した日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入、チェック結果を簡潔に記入(例: 関連基準類、過年度成果の該当項目、妥当性判断等の根拠)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			



# 河川護岸のチェックポイント（その2）

## 【法覆工】

- ・ 28  護岸形式は適正か
- ・ 29  外力による工法選定を行っているか
- ・ 30  再度災害防止の観点から工法を選定をしているか
- ・ 31  現場の条件に応じた構造モデルで設計を行っているか
- ・ 32  使用材料は適正な評価に基づいて選定されているか
- ・ 33  各部構造の配置、寸法は妥当か
- ・ 34  法覆工背面における遮水や吸出しへの対策は必要ないか
- ・ 35  多自然川づくりは現地の環境特性に適合しているか
- ・ 36  残留水圧を軽減する対応は必要ないか

## 【基礎工】

- ・ 37  洗掘深、最深河床の評価高の設定は妥当か
- ・ 38  基礎形式は妥当か
- ・ 39  基礎工の根入深さは適切か
- ・ 40  形式、寸法は妥当か
- ・ 41  基礎矢板の根入深さは妥当か

## 【根固工】

- ・ 42  根固工の設置幅、施工延長及び施工断面は妥当か
- ・ 43  選定した根固工の種類は妥当か
- ・ 44  水際部における環境配慮を考慮する必要はないか
- ・ 45  根固工の力学的安定性の照査は妥当か

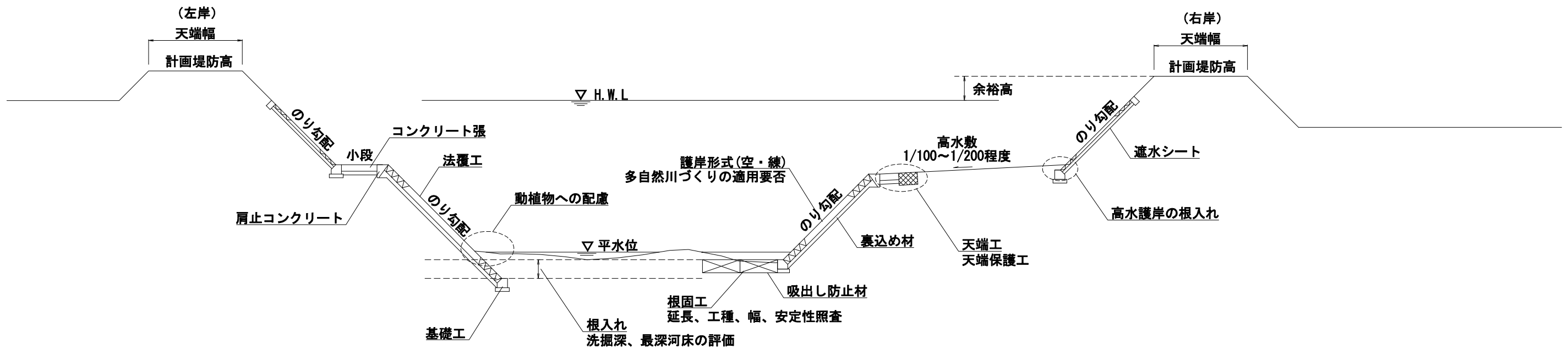
## 【施工計画】

- ・ 46  施工計画に必要な条件は整理されているか
- ・ 47  施工計画に必要な周辺環境は把握しているか
- ・ 48  施工方法及び施工手順は妥当か
- ・ 49  施工に配慮した設計図となっているか

## 【仮設構造物】

- ・ 50  仮締切工の構造及び高さは妥当か
- ・ 51  仮設構造物の検討ケース毎の条件設定は整理されているか
- ・ 52  仮締切時の安全性は確保されているか
- ・ 53  施工時における周辺地域への影響は把握しているか

項目	確認	確認日	確認資料、チェック結果
照査項目番号	照査項目に✓を記入	確認した日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入、チェック結果を簡潔に記入(例: 関連基準類、過年度成果の該当項目、妥当性判断等の根拠)
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			



# 河川護岸のチェックポイント説明シート

令和3年5月版

項目	NO	チェック項目	留意点など
河道条件	1	河道区分を把握したか。	水系、掘り込み河道・築堤河道、高潮対策区間など
	2	上位計画・周辺計画を把握したか。	河川整備基本方針、河川整備計画、まちづくり計画、道路計画、景観条例、水辺空間計画など(既往の予備設計等による条件明示シートの有無を確認)
	3	本川及び支川の計画平面、縦断、横断形状を把握したか。	整備計画附図、連続区間との断面・高さの整合、背水影響、河道形状変遷、堤内地盤高など
	4	河道の計画・施工断面、周辺構造物の整備・撤去計画を把握したか。	将来計画と暫定計画、周辺構造物による影響確認
	5	本川及び支川の水利条件及び河道特性を把握したか。	河道の水利的な基本条件 ・流量、流路 ・流況、位況 ・改修による水位変化(流速・水深等) ・湾曲による影響 ・潮位による影響 ・砂州の評価(固定、移動) ・既往検討による水利条件の確認(粗度係数、代表流速など)
	6	計画高を把握したか。	設計区間における河道整備上の基本条件(堤防、高水位、高水敷、河床)
	7	法線は適正か。	法線見直しの要否を判断(堤防、低水路)
	8	座標と基準点は適正か。	座標系変更の経緯、基準点情報・距離標台帳などによる確認
	9	設計区間のセグメント区分を確認したか。	河道特性の把握
	10	河川の成り立ちを把握したか。	治水地形分類図(旧川跡、要注意地形等)、地形・地質状況、築堤履歴など
	11	その他の関連情報について把握したか。	用・排水系統、地域特性・周辺の土地利用状況、被災履歴、地下埋設物など
現地踏査	12	河川状況を把握したか。	滞筋(位置・水面幅)、瀬・淵、水質、土砂堆積、植生分布、河床材料、岩盤露出など
	13	河川構造物及び橋梁の状況を把握したか。	堤防・護岸、堰・水門・床止め、樋門、利水施設、排水施設、橋梁等の位置、基礎構造など
	14	周辺環境の状況を把握したか。	堤内地における土地利用・道路の状況、周辺景観との調和、山付きの有無、用排水路(経路の確認等)など
	15	用地境界位置を確認したか。	既存平面・横断図の境界位置、公図との整合
	16	支障物件の状況を把握したか。	地下埋設物、架空条件の整理、既設樋管・橋梁のクリアランスなど
	17	施工計画の条件を把握したか。	施工ヤード、濁水処理、交通条件、施工機械・運搬車両の進入路など
基本条件	18	設計箇所、設計範囲を確認したか。	起点、終点を確認したか
	19	対象箇所及び上下流の環境特性は確認したか。	魚類、植生、瀬、淵などの環境情報。環境情報図の確認など
	20	水利条件や河道特性は整理されているか。	収集資料の整理と現地踏査による結果を反映
	21	既往検討による築堤の計画断面及び施工断面は妥当か。	構造令や定規断面との整合確認、左右岸バランスなど
	22	関連する設計との整合はとれているか。	計画の整合、マッチライン・施工手順等の確認
	23	周辺構造物の計画等を確認したか。	堤防・護岸、堰・水門・床止め、樋門、橋梁など
	24	地層構成等の条件は把握しているか。	ボーリング柱状図や土質試験結果等、既存調査資料の収集整理など
	25	伝統工法の採用の可能性について確認したか。	周辺地区における採用事例の確認、歴史的遺構、地域特性、景観要素、環境保全など
	26	関係機関、地元等との調整内容を理解したか。	工作物管理者、地権者、占有者(漁協、土地改良区など)、他事業者など
	27	景観への配慮は必要ないか。	景観に関する上位計画との整合、周辺景観と調和したデザイン、明度、彩度など
法覆工	28	護岸形式は適正か。	現況構造の確認、上下流・左右岸での整合
	29	外力による工法選定を行っているか。	安全性の確保、護岸の力学設計法、美しい山河を守る災害復旧基本方針など
	30	再度災害防止の観点から工法を選定をしているか。	当該地及びその周辺部における既往の被災形態を考慮した護岸構造
	31	現場の条件に応じた構造モデルで設計を行っているか。	のり勾配、空・練、壁高、裏込め土など
	32	使用材料は適正な評価に基づいて選定されているか。	使用材料と規格(強度、市場性、経済性、施工性、景観性、環境配慮等)、新技術の適用、新材料の適用可能性、プレキャスト材の確認、現地材料の利用可能性、類似品の有無
	33	各部構造の配置、寸法は妥当か。	横帯工、目地、肩止コンクリート、天端工・天端保護工、端止工など(ローカルルール等はないか)
	34	法覆工背面における遮水や吸出しへの対策は必要ないか。	遮水シート・吸出し防止材敷設の有無
	35	多自然川づくりは現地の環境特性に適合しているか。	安全性の確保、動植物が生息生育する多様な環境の創出など
	36	残留水圧を軽減する対応は必要ないか。	水抜きパイプの要否、設置範囲・間隔

# 河川護岸のチェックポイント説明シート

令和3年5月版

項目	NO	チェック項目	留意点など
基礎工	37	洗掘深、最深河床の評価高の設定は妥当か。	一連区間における評価、河道特性に応じた検討
	38	基礎形式は妥当か。	直接基礎・矢板基礎・杭基礎、根固工の要否、沈下の有無
	39	基礎工の根入深さは適切か。	低水護岸・高水護岸の場合
	40	形式、寸法は妥当か。	適用基準の引用先の明確化(ローカルルール等はないか)
	41	基礎矢板の根入深さは妥当か。	使用区分(漏水防止、洗掘防止など)、支持層の選定・根入れ長、応力計算の要否
根固工	42	根固工の設置幅、施工延長及び施工断面は妥当か。	基礎工設計方針との整合(洗掘深、設計河床高(最深河床評価高))
	43	選定した根固工の種類は妥当か。	工法選定(異形ブロック・捨石工・籠工・沈床工など)
	44	水際部における環境配慮を考慮する必要はないか。	河道特性・環境特性に適合した多自然川づくり(魚類のハビタット、水生植物の定着)
	45	根固工の力学的安定性の照査は妥当か。	適用基準、適用モデル、水理条件の整理、重量算定
施工計画	46	施工計画に必要な条件は整理されているか。	搬入出口、河道の切廻し、施工ヤード、施工機械、運搬車両など
	47	施工計画に必要な周辺環境は把握しているか。	運搬経路、土地利用条件、近接構造物への影響検討の要否
	48	施工方法及び施工手順は妥当か。	経済性・安全性、工区割、段階施工時の条件、他工区との施工時期の調整
	49	施工に配慮した設計図となっているか。	施工ステップ図、搬入出先ルート図、交通誘導員配置図、施工要領図など
仮設構造物	50	仮締切工の構造及び高さは妥当か。	安全性の確保、仮締切対象流量・仮締切水位
	51	仮設構造物の検討ケース毎の条件設定は整理されているか。	施工段階ごとの安全性照査
	52	仮締切時の安全性は確保されているか。	瀬替・水替時流量、水路切廻しの安全性、阻害率
	53	施工時における周辺地域への影響は把握しているか。	周辺地域における地下水影響、地下水対策